

## タイ・バンコクとプーケットで防災出前授業を行いました (2014/6/16-21)

テーマ：防災出前授業，2004年インド洋津波，2011年タイ洪水  
 場所：タイ（バンコク，プーケット）

近年，日本以外の国でも多数の自然災害が発生しています。例えば，2013年にフィリピンで台風と高潮が発生し，被害が拡大しましたが，タイでも近年いくつかの大きな自然災害を経験しました。2014年は2011年大洪水から3年間になり，2004年インド洋津波から10年間も経ちました。時間と共に災害の記憶が無くならないように，減災教育が重要になります。災害科学国際研究所は今まで国内の学校で減災教育出前授業を行い，今年の1月に初めて，海外・ハワイで実施しました。そこで，2014年6月16日から21日まで米国・ハワイに引き続き東南アジア地域でタイの洪水を経験したバンコクと津波を経験したプーケットで計400人の生徒に減災授業を行いました。授業担当はサッパシー・アナワット准教授（寄附研究部門），野内類助教（人間・社会対応研究部門）と保田真理助手（災害リスク研究部門）及び現地の協力者が担当しました。

17日はプーケット市内の小学校で，減災教育出前授業を行いました。この学校は津波の心配はないが，地震災害について関心がありました。18日はプーケットの海沿いの小学校に行きました。2004年インド洋津波の時には2階建て校舎の2階まで浸水しました。大震災後，校舎は3階建てに立て直し，毎年行われる津波避難訓練では校舎の3階が避難場所になっています。今回は授業の後，もし地震の揺れによって校舎の安全性が確定出来ない事，想定した津波の高さが校舎より高い場合を想定して，校舎の背後の高台へ避難訓練を行いました。この学校にとっては高台への避難訓練は初めての事になり，小学校4年生から6年生までの70人が高台まで避難するのは10-15分程度要する事が分かりました。

20日はバンコクから少し離れた学校で中学生を対象に減災教育出前授業を実施しました。この学校は2011年タイ大洪水の時にも3週間程度で約2.5m浸水しました。授業の前に洪水現場を確認し，当時の状況，対応や現在の対策状況を確認しました。授業後のシナリオ・ゲームは，大洪水の場合，もし自分が異なる役割の場合，どう対応するかを考えさせました。21日はバンコク市内の学校で高校生を対象に減災教育出前授業を実施しました。この学校はタイの大洪水でも浸水していない地域だったので，自然災害の種類やメカニズムの説明と，対策や対応をきちんとする事で，確実に被害が減少する事を紹介し，シナリオ・ゲームで，疑似体験をイメージしてもらいました。どの学生も積極的に取り組み，ツールとして使用した減災ポケットは彼らの好奇心を刺激したようでした。



上（左）：グループワーク，上（中）：減災ポケット，上（右）：津波避難訓練，下：集合写真

文責：保田真理（災害リスク研究部門），野内類（人間・社会対応研究部門），  
 サッパシー・アナワット（寄附研究部門）